

CONTENTS
「分かり合える日本語」による
共生社会の構築

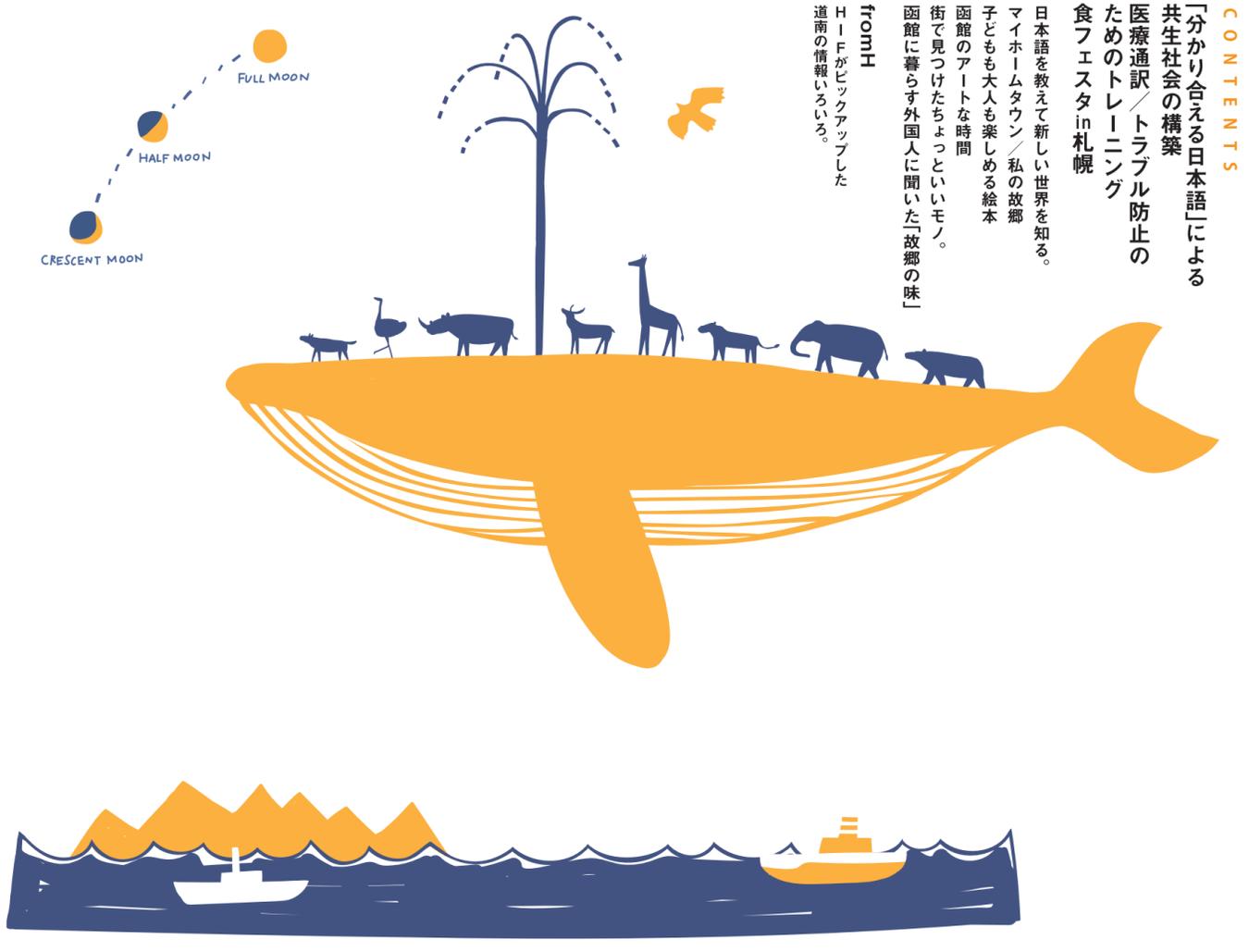
医療通訳／トラブル防止の
ためのトレーニング
食フェスタ in 札幌

日本語を教えて新しい世界を知る。
マイホームタウン／私の故郷
子ども大人も楽しめる絵本
函館のアートな時間
街で見つけたちょっといいモノ。
函館に暮らす外国人に聞いた「故郷の味」

fromH
HIFがピックアップした
道南の情報いろいろ。

HIF PRESS vol.2

エイチアイエフ・プレス



EDITOR'S NOTE

●20数年前、あるモニター会議で出会い、その後「ばすてる」でもお会いし、今回、表面・PERSONSにも登場していただいた川村幾代さん。穏やかで、フレンドリーで、何でも話してしまう雰囲気がある。それでいて、芯があり社会活動もしている。HIFでは海外のいろいろな人と出会うが、日本人だって人間は一人一人違う存在だ。国際交流もダイバーシティ(多様性)を大切にしてゆきたいと取材をして感じた。(池田)

●第1号の発行を受けて「見ましたよー」などと温かいお言葉をいただきました。情報発信に必要かつ大切なのは、何よりもそれを受け止めてくれる相手。これからも常に読み手を意識し、楽しみながら編集に携わっていきたいです。(櫻坂)

●3年ぶりにバル街が開催されます。実は初めて体験する(予定)のバル街 今からわくわくしています。少しずつ暖かくなってきました。次号は5・6月の道南のイベントを発信していきます。(吉田)

●ウガンダでは粟の粉でパンを作ったり、甘くないバナナを蒸したりなど、様々な主食があるようです。多民族国家で、人口2万人の村に6つの民族が暮らしていることも。そして、道路をチンパンジーが横切る。取材中ずっと驚いてました。世界は広い。(松田)

5月～6月のイベント情報募集しております。
お問い合わせは北海道国際交流センター (HIF) 担当/吉田まで。



●左下で紹介した小宮伸二氏のウクライナ国旗をモチーフにしたオブジェ。売り上げはUNHCR(国連難民高等弁務官事務所)又はUNICEFを通じて、全額ウクライナの難民支援に寄付されること。壁掛け・据え置き兼用。大¥5000、小¥2000。SUQ+(宝来町)、はこだて工芸舎(末広町)にて取り扱っている。

[SUQ+]
函館市宝来町27-13 0138-22-6167
※はこだて工芸舎は中面右ページ下参照。

設置場所

函館市役所1階市民ホール／函館市各支所
函館市亀田交流プラザ／函館市芸術ホール
函館市地域交流まちづくりセンター／函館市女性センター／函館市青年センター／函館コミュニティプラザGスクエア／函館市中央図書館 他図書館／函館市公民館／函館市総合保健センター／函館市総合福祉センター／七飯町文化センター／北斗市総合文化センターかなで〜る／北海道教育大学函館校／金森森レング倉庫(末広町)／北海道国際交流センター 函館YWCA / cafe D'ici(元町)／はこだて工芸舎(末広町)／Classic(谷地頭町)／Pain屋(宝来町)／こなひき小屋(七飯町)／大沼国際交流プラザ(七飯町)／LEAVES(北斗市)／木彫り熊と本の店kodamado(八雲町)

次号は5・6月発行です。
2023年3・4月号(隔月発行)
2023年3月1日発行
発行人/池田 誠
編集人/HIF PRESS 編集室
(株)中村事務所

禁・無断転載

HIF HOKKAIDO INTERNATIONAL FOUNDATION
040-0054 函館市元町14-1
TEL.0138-22-0770 FAX.0138-22-0660
E-mail: event@hif.or.jp

hif.or.jp



HIFがピックアップした
道南の情報いろいろ。

道立函館美術館で ボランティアを募集中。

●「いちいの会」をご存じだろうか。1986年の北海道立函館美術館開館以来、館の活動をサポートし続けるボランティア団体の名称だ。喫茶部、売店部、資料整理部、広報部の4つの部門で構成され、館の運営の大きな力となっている。「いちいの会」では、活動に参加してみたいとお考えの方に、内容を詳しく紹介する「説明会」を開催している(希望者がいる場合、月1回第4水曜日13時30分から実施)。会員は随時募集中とのこと。活動の他に、会員対象の研修会(講座)も実施しており、美術に関する教養を高めることもできる。

【入会条件】
・函館市及び近郊にお住まいの方で、週1回、4時間の活動が可能の方。
・あくまでもボランティア活動なので、報酬等はなく、交通費も自己負担。

【問合せ】
いちいの会事務局 0138-56-6311
北海道立函館美術館
artmuseum.pref.hokkaido.lg.jp/hbj

いちいの会



性的マイノリティとの 向き合い方について学ぶ。

●LGBTについての理解を求める声が叫ばれて久しいが、それでもなお性的マイノリティ

への偏見は根強い。そもそもLGBTという概念や言葉にはさまざまな意見があり、「それ以外にも性のあり方は多様だ」とも言われる。「NPO法人 共生社会をつくる性的マイノリティ支援全国ネットワーク」は、性的マイノリティへの根強い偏見を解消するために、国や地方自治体と連携しながら相談事業、講師派遣、支援者養成、施策助言といった活動をしている団体だ。今回、この団体の共同代表である原ミナ汰氏を招き、性的指向や性自認に関する悩みなどに寄り添う傾聴スキルを学ぶための講座が開催される。是非ご参加を。

【LGBTQ 相談支援基礎講座】
【日時】3月4日(土)・11日(土) 14:00～16:00
【場所】函館市女性センター
【講師】NPO法人 共生社会を作る性的マイノリティ支援全国ネットワーク共同代表理事 原ミナ汰氏

【参加費】無料 **【定員】**24名(抽選)
【申込受付】2月10日(金) 10:00～
※定員に満たない場合は、3月中も受付可能
電話にてお問い合わせを。

【問合せ】
函館市女性センター
函館市東川町11-12 0138-23-4188
hakodate-josen.com/

自分の身を守るために何ができるのか。それを共に学ぶ。そして私たちにできる大切なことがある。今こそCAPを。

【問合せ】
(一財) 函館YWCA・CAPグループ
函館市松陰町1-12
0138-51-5262 (FAX) 0138-54-9548
E-mail: hakodate@ywca.or.jp

3年ぶりに開催。
函館西部地区バル街

●コロナ禍で、社会生活に求められてきた大きな制約が徐々に緩和され、さまざまなイベントが再開される動きも出始めている。市民や観光客に愛され続け、西部地区の風物詩にもなっている「バル街」も、2019年の「秋バルBar32」を最後に3年間中止を余儀なくされていたが、いよいよ今年春、再開される方向で進んでいるという。通例の4月中旬ではなく、5月20日(土)の開催予定。



子どもたちに伝える 安心・自信・自由の権利。

●CAP(キャップ)とはChild Assault Prevention(子どもへの暴力防止)の頭文字をとった略称。1978年女兒レイプ事件をきっかけにアメリカで誕生した。日本では1985年にこのプログラム開発にも携わった森田ゆり氏によって紹介され、1995年からCAPスペシャリストの養成がスタートした。函館では1996年、函館YWCA・CAPグループが東京以北で初のグループとして発足。同年、ワークショップを実施。活動は、こどもワークショップ、おとなワークショップの開催など、さまざまな形で継続し、現在に至る。子どもたちに「安心(あんしん)」「自信(じしん)」「自由(じゆう)」の権利があることを伝え、あらゆる暴力から自分で



写真/函館西部地区バル街公式サイト
※チケットの発売日など、詳細は2月上旬時点で決定。下記をチェックしていただきたい。
「函館西部地区バル街」
公式ホームページ QRコード

「水のゆらめきに身をまかせる」「ガリバーの旅を「画」で辿る」2つのアートイベント。

『水ヲ纏フ』 ——— ●小宮伸二

●弊誌の前身である@hの表紙を担当していただいたこともある現代美術家・小宮伸二氏。函館を拠点に活動する彼の展覧会が、函館コミュニティプラザGスクエアで開催される。作品は「水ヲ纏フ」と題した彼の代表作でもある「水のインスタレーション」だ。今回は2021～2022年に北海道立釧路美術館での個展で発表されたものをGスクエアのためにバージョンアップしたとのこと。水に包み込まれるような不思議で静謐なアート空間をぜひ体験していただきたい。

【日時】3月18日(土)～26日(日) 11:00～21:00(最終日15:00)
【入場】無料 ※会期中15:00までは作家が在廊します。
【場所】函館コミュニティプラザGスクエア イベントスペースB
函館市本町24-1 エスタハコダテ4F g-sq.jp

『TRAVELOGUE G』原画展 ——— ●平松 麻

●2020年6月から2022年2月までの約2年間、毎週金曜日に朝日新聞連載小説として掲載された、ジョナサン・スウィフトの長篇『ガリバー旅行記』(柴田元幸訳)のために画家・平松 麻さんが描き下ろした挿画77点に、加筆作品22点を加えた画集『TRAVELOGUE G』が昨年11月にスイッチ・パブリッシングより発売された。これを記念して函館 蔦屋書店にて原画展が開催される。これはスウィフトが紡いだ奇想天外な世界を、平松さんが「画」で辿った旅の記録だ。

【日時】～3月19日(日)
【場所】函館 蔦屋書店
函館市石川町85-1
【入場】無料
hakodate-t.com

『TRAVELOGUE G』
平松 麻 / 画
スイッチ・パブリッシング / 刊
switch-pub.co.jp

PERSONS



川村幾代
まちかど相談室相談員

PROFILE
函館生まれ、おしま地域療育センターから、地域相談窓口のばすてるまで勤務。その後、その後子どもへの暴力防止のためのCAPで活動。短大、専門学校非常勤講師、看護師、養護教員、公認心理師の資格を持つ。

※「まちかど相談室」は毎月2・3回程度開催。場所は函館市ハコダテ4階。詳細は函館市地域交流まちづくりセンターのウェブサイトも告知しています。
hakomachi.com

函館市女性センターが運営する「まちかど相談室」の相談員として、川村さんは悩みを抱える女性たちにずっと向き合い続けてきた。他にも函館市子ども未来部での相談員や子どもへの暴力防止活動を行う「CAP」、「道南ジェンダー研究ネットワーク」、また非常勤講師を務める短大・専門学校では、学生たちの悩みを聞くといった取り組みも行って、その活動の幅は広い。他人の悩みを聞き、解決策と一緒に考える。それを継続的に行うということがどれほどたいへんかは想像に難くない。ではなぜ川村さんがこれほど精力的に行動するのか。きっかけは彼女自身の経験が大きく影響しているのだという。

「私には重度の障がいを抱える弟がいます。彼の介護の問題から派生して、父の言動や母の病い等など、家族の中でもさまざまな出来事がありました」。10代の頃、若かった彼女にとってその負担は大きく、相談する相手もない辛い毎日だった。

しかしそれが、その後の進路を決めるきっかけともなった。弟のためにできることは何かと強く思った。高校卒業後、養護

教員の資格を取得。看護師として当別の「おしまコロニー診療所」で働き始め、自分と同じように障がい者を抱える家族の悩みに接した。その中で、親を支援する仕組みはあっても、やはり兄弟へのケアが不十分だと感じた。そこで障がい者の兄弟姉妹が悩みを語り合う場「きょうだいの会」を立ち上げる。自分と同じような境遇の人たちが、思いを吐き出し、少しでも楽になれるの思いからだ。それはやがて札幌、旭川、十勝などと同様の会が発足し、活動は北海道へと広がっていった。

その後、障がいの有無に関わらずどんな相談も受ける「ばすてる」の立ち上げにも関わった。結婚・出産後は、石川町の「療育センター」に勤務。障がいのある子どもたちに接するとともに、自らも2人の子どもの育児を経験する中で、子育てや社会問題についても考えるようになった。世の中にはさまざまな問題を抱え、あの頃の自分がおおぜいいる。自分に何かできないか、という思いが川村さんの原動力となった。「相談に来られる方の悩みは多種多様で

す。子育てや離婚問題。生活苦といった金銭的な悩みや深刻なDV被害もある。早急に支援が必要なのに情報不足から支援が行き届いていないといったケースが数多くあります。行政やそれぞれの専門家につなぐアウトリーチの重要性も実感する。「弟の障がいに向き合って、戸惑い、不安だったあの頃に比べれば、福祉制度も少しづつ整ってきましたが、まだ十分だとは言えません。ですから「気軽に相談できる窓口」としてこの活動を、微力ですがこれからも続けていきたい」と語れる。

●コロナ禍で、マスクの着用により声や表情を思うように出せないといった子どもたちの問題に触れ、自由にできない気持ちをもっと表現できる方法を練習し、共感する気持ちを学ぼうと、日米で多様性人権、子ども・女性への暴力防止専門職養成を行う森田ゆりさんの本を使い「気持ちの本」も持っている。



川村さんがワークショップで使用した絵本「子どもは気持ちを伝えることが社会問題の解決方法の一つである」というメッセージが込められている。

